

発生予報第6号（概要版）

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	葉いもち	発生時期: 平年並 発生量: やや多	発生時期: 全般発生期
	紋枯病	発生量: 平年並	
	稲こうじ病	発生量: やや少	
	斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)	発生時期: やや早い 発生量: 平年並	発生時期: 第1世代成虫発生盛期

作物名	病害虫名	発生予報	備考
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	
	褐斑病	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	キンモンホソガ	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
なし	黒星病	発生量: やや少	
	ハダニ類	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	果樹カメムシ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋きゅうり	うどんこ病	発生量: 平年並	
	べと病	発生量: 平年並	
	褐斑病	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
いちご	炭疽病	発生量：平年並	

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第7号の発表日は7月24日(月)の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月29日～7月4日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期 (全般発生期※)	発生量
葉いもち	平年並 (7月第3半旬:7/11～7/15)	やや多

※全般発生期:1地点25株調査により、県内で広く葉いもちが確認される時期

予報の根拠

- (1) 定点調査ほ(品種「ひとめぼれ」)における発病株率及び株あたり病斑数は6月下旬以降急増し、ともに平年を上回って推移している。(/+)
- (2) 巡回調査の結果、発病株率は平年並であったが、発生地点率は平年より高かった。(ー～± /+)
- (3) 7月10日現在、BLASTAMによる感染好適条件の推定結果では、6月下旬以降、県広域で感染好適条件が連続して出現している。(ー～± /+)
- (4) 平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量は平年並か多く(ー～± /±～+)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。(± /±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。(/ー)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/±)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
稲こうじ病	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。(/ー)
- (2) 穂ばらみ期が低温で、降雨日数の多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期 (第1世代成虫発生盛期)	発生量
斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)	やや早い (7月第4半旬:7/16~7/20)	平年並

予報の根拠

- (1) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの越冬世代成虫発生盛期は6月第3半旬であり、平年(6月第5半旬)より早かった。(- /)
- (2) 巡回調査の結果、イネ科植物が出穂している牧草地及び雑草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は平年よりやや高く、すくいとり虫数は平年並であった。(/ ±)
- (3) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(- / +)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・出穂期予測を参考に適期防除を実施する。県平均の移植時期(5月12日)における「ひとめぼれ」の出穂期は8月1日(平年:8月2日)と予測されている(宮城県米づくり推進本部発表)。

(2) 葉いもち

- ・防除情報第2号(7月10日発表)を参照。
<http://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05bojono02.pdf>

(3) 紋枯病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・要防除水準:「ひとめぼれ」の減収率を5%以上と想定した場合、穂ばらみ期の発病株率は18%以上となる。要防除水準に達した場合、防除を実施する。
※普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤または穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。

(4) 稲こうじ病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、稲こうじ病が前年に発生したほ場では防除を検討する。
- ・銅剤による防除は出穂20～10日前が散布適期である。
- ・窒素肥料の多用は発生を助長するおそれがあるため、追肥の多用は避ける。

(5) 斑点米カメムシ類

- ・ 生息地である水田周辺のイネ科植物の草刈りは、水田における斑点米カメムシ類の増殖を抑えるため、幼虫の発生が主体となる7月中旬までに遅滞なく実施する。
- ・ 水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クオルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月29日～7月4日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台7月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 定点調査ほ(品種「ふじ」)の新梢における発病葉率は平年より高く推移している。(/+)
- (2) 巡回調査の結果、徒長枝及び新梢における発生地点率は平年より高く、広域で発生がみられた。発病葉率も、徒長枝及び新梢ともに平年より高かった。(/+)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/+)
- (2) 気温 20℃前後で多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/-)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、1葉当たりの寄生頭数はナミハダニは平年並、リンゴハダニは平年より多かった。(/±～+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/-～±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生新梢率は平年よりやや低かった。(/-)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/-～±)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害葉率は平年よりやや高かった。(/+)
(2) 20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。
(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・薬剤については、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/miyagi>

(2) 斑点落葉病、褐斑病

- ・防除情報第3号(7月10日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05bojono03.pdf>

(3) アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。
- ・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

(4) ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。よってそれらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

(5) キンモンホソガ

- ・6月以降に発生する成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- ・徒長枝に多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月29日～7月4日

天候予報:仙台管区气象台7月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、果そう葉における発病葉率は平年よりやや低く、新梢における発病葉率は平年並であった。発病果は確認されなかった。(/ー～±)
- (2)気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び1葉当たりの寄生頭数は平年並であった。(/±)。
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生新梢率は平年よりやや低かった。(/ー)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)フェロモントラップ調査では、7月第1半旬まで誘殺が確認されている。(/±)
- (2)巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高かった。(/+)
- (3)果樹カメムシ類の活動には高温が好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤーによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/miyagi>

(2) 黒星病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が 14～30 日であり、まとまった降雨の後しばらく経過してから、急に症状が現れることがある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。
- ・本県では現在まで DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11)、SDHI 剤 (FRAC コード:7) の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とし、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避ける。
- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分する。
- ・不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。

(3) ハダニ類

- ・薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。よってそれらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

(4) アブラムシ類

- ・発生の多いほ場では、他の害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定して防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(5) 果樹カメムシ類

- ・防除情報第4号(7月10日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05bojono04.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－7月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:6月29日～7月3日

天候予報:仙台管区气象台7月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/－)
- (2)15～28℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/±)
- (2)20～24℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/－～±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	－	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/±)
- (2)30℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び1葉当たりの寄生頭数は平年並であった。(/±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少くなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

・ウイルス病に罹病している株は伝染源になるので、取り除き、ほ場外で適切に処分する。

(2)うどんこ病、べと病、褐斑病

・肥料切れは発病を助長するため、適切に肥培管理を行う。

・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。

・薬剤防除は、罹病葉・果を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから実施する。

・被害残さは伝染源となりうるため、被害茎葉は適切に処分しほ場内の菌密度を下げるよう努める。

(3)べと病、褐斑病

・多湿で発病が助長されるため、過繁茂とならないよう老化した下葉など不要な葉を取り除き、風通しを良くする。

(4)アブラムシ類

・株に定着すると急激に増加し、防除が困難になるとともに、ウイルスを媒介することがあるので、有翅虫やアブラムシの群生が見られた場合には速やかに防除を行う。

・ほ場外からの飛来を防止するため、ほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネットを設置する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月上旬までの発生予報と防除のポイントー

潜在感染調査(サンプリング):6月15～20日(親株)

天候予報:仙台管区气象台7月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	ー	平年並

予報の根拠

(1) エタノール噴霧法による潜在感染調査では、潜在感染株は確認されなかった。(/±)

(2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)炭疽病

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離した時点から収穫終了までとなる。
- 水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くなならないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- 発病株の残渣が土壌中に残り伝染源となるため、使用資材は農業資材用の消毒剤で洗浄するか、更新する。また、定植前に本ほの消毒を行う。
- 高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしせず開閉し、イチゴに当てる日照量を増やすなどして健全育苗に努める。
- 予防防除が重要である。薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤(FRAC:11)の耐性菌が確認されているので留意する。
- 発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り適切に処分する。
- IPM 体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

- 定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム